

恭順から抗戦へ 「軍議1日目」

右の図は、5月22日(今の暦で7月11日)の軍議に集まつた藩を表したもので、當時は、家紋場所は、加茂町の大庄屋の屋敷(市川邸:今の第四銀行周辺)です。全体指揮をする藩は、奥羽越列藩同盟の越後のまとめ役をする米沢藩であるはずでした。しかし、だれがリーダーになるかで「会議」は最初からもめました。その様子を、実況放送風にみていきましょう。それぞれの藩の「知恵」が絡み合う姿をみてきましょう。



歴史年表

※当時の暦(旧暦)で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還

1867.12.9 王政復古

1868.1.3 鳥羽伏見の戦い

1868.3.11 江戸城明け渡し

1868.5.19 長岡城明け渡し

1868.5.22 加茂軍議
一日目

1868.5.24 長岡城の戦い



城を取り戻す

1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い



米沢藩：全軍の指揮をするだけは、ごかんべんください。
会津藩：あなたが、越後の藩を助けないというなら、あなたの藩のご先祖である上杉謙信さまは何といわれるでしょう？
長岡藩：わが長岡藩は7万石ほどの小さい藩ですが、義の心を忘れたことはありません。わが藩は開戦に踏み切ったのですが、村松藩の裏切りで、あえなく長岡城は落城しました。
村松藩：河井継之助どの、裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。
長岡藩：ここは団結して、長岡城を取り戻す作戦を考えてはどうでしょう。
米沢藩：長岡藩の河井継之助どの、村松藩の気持ちもわかって、ここはいっしょに戦おうではないか。
桑名藩：わが桑名城も落城している。わたしたちも、自分の城を取り戻す決意です。ここは、長岡城を取り戻そうではないか。
会津藩：今日の会議で、奥羽越列藩同盟の義の心を確かめることになった。そして、今日決まったことは、長岡城を取り戻すことだ。

河井継之助が言った「村松藩の裏切り」とは事実ではない。この発言で、軍議は長岡城を取り戻すという【抗戦】に変わる。

長岡城を取り戻せ 「軍議2日目」

右の図は、5月23日(今の暦で7月12日)の軍議に集まった藩です。1日より参加者は少なくなっています。前半は、だれが指揮をするのか、そして、村松藩への非難で、時間が流れていきます。

しかし、次第に長岡藩の河井継之助が会の流れを作っています。長岡城を取り戻すための具体的な作戦を示しています。

ふたたび、藩の「知恵」が絡み合う姿をみていきましょう。



会津藩：指揮は米沢藩にお願いしたい。

米沢藩：まだ、藩の責任者が加茂に来ていません。それから相談をお願いしたい。

長岡藩：昨日もいったが、わが長岡城は、村松藩の裏切りによって落城したのです。村松藩は、このことをどう考える。

村松藩：河井継之助どの、昨日もいったが、だんじて裏切りなどではありません。ここにきているのが証拠です。

(長岡城を取り戻して、どれほどの利益があるのだろうか？ 疑問に感じ、黙っている人も多数いた。)

長岡藩：敵（新政府軍）もまさか、われわれが加茂にまっているとは知らない。ここは、一気に長岡に攻め込んでどうか。

会津藩：一日目の軍議で、河井継之助どのの会津藩への義を感じた。それにこたえるためにも、長岡城を取り戻すことに全力をつくそうではありませんか。

桑名藩：加茂は桑名藩の預地です。ここを中心に、一気に攻撃をかけましょう。

長岡藩：長岡城を失った今、加茂は越後の中心です。ここを足がかりに、知恵を使い敵が思いつかない作戦をすれば勝てる。

米沢藩：わが藩は藩をあげて、長岡城を取り戻すことに協力します。

この後、長岡藩が、作戦内容と各藩の役割分担を決める。そして、次の日（5月24日）、軍は加茂をたち長岡に向かう。

歴史年表

※当時の暦（旧暦）で示す
1600 江戸幕府始まる

1867.10.14 大政奉還

1867.12.9 王政復古

1868.1.3 鳥羽伏見の戦い

1868.3.11 江戸城明け渡し

1868.5.19 長岡城明け渡し

1868.5.23 加茂軍議
二日目

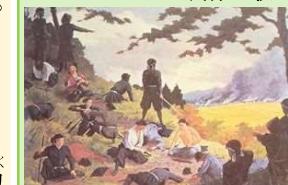
1868.5.24 長岡城の戦い



城を取り戻す

1868.5.27 長岡城明け渡し

1868.8.23-9.22 会津の戦い



1869.5月 五稜郭の戦い

